

令和5年度 県立藤代紫水高等学校自己評価表

目指す学校像	活力があり、生徒も教職員もともに幸せで楽しい学校 ・知・徳・体が調和した豊かな人間性を培い、民主的な社会に貢献し得る人間の育成を目指す学校 ・地域に貢献し、社会から信頼される生徒を育むために、一人一人の生徒に誠実に向き合う学校			
三つの方針	具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・知・徳・体が調和した豊かな人間性をもち、民主的な社会に貢献し得る人財の育成 ・地域に貢献し社会から信頼される人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・生徒の幅広い学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、大学進学から就職までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・学習、学校行事、部活動等に積極的に取り組むとともに、自分の進路実現に向け努力する生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
【昨年度の成果】 1 課題を持った生徒を支援していくために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を積極的に活用することで教育相談体制を強化することができた。 2 規範意識やモラルを高める取組を充実させた結果、挨拶・礼儀等の基本的な生活習慣は生徒に身につけさせることができた。 3 学校WEBページを充実させ、本校の教育を保護者や地域の方々に積極	1 豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実	・面談等を通じて、生徒一人一人の個性や特性を十分に理解する。 生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を積極的・効果的に活用することで、教育相談体制の強化を図る。 ・教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。 ・安全と清潔を心掛け、快適な学習環境を整える。 ・挨拶指導を推進し、他者を思いやる意識の育成を図るとともに規範意識やモラルを高める取組を充実させる。	A	

的に配信することで、その目的と成果を周知し、信頼される学校づくりの一助とすることができた。	2 確かな学力の定着をめざした授業改善の推進	・新学習指導要領で目指す資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を一層促進する。 ・ICTを活用した個別最適な学びを確立する。 ・授業満足度（KPI）4段階中、平均3.0以上を目指す。 ・研究授業や相互授業参観を積極的に行い、授業改善や教科指導法に関する研究協議を実施する。	A
【今年度の課題】 1 心を育む教育の推進と生徒指導の充実を図るために、昨年度の体制に加え、医療機関や中学校等を含めた外部の専門家との一層の連携強化に取り組む一方、校内の連絡・報告体制を整備することで迅速かつ適切な対応ができるようにする。	3 探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育の推進	・生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを構築する。 ・「個別最適な学び」・「協働的・探究的な学び」・反転学習等、ICTを活用した教育活動を推進する。 ・学習アプリの活用を促進する。 ・異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。	A
2 生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を支援し、家庭学習を促進するためにICTや学習アプリを活用した学習を推進することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るなど、授業改善に積極的に取り組む。 3 生徒一人一人が自らの意思と責任で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。特に教員志望の生徒に対して重点的に支援の方法を研究す	4 多様な進路希望に対応したキャリアデザイン形成	・生徒が自らの在り方・生き方を考え、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図ることで、生徒の自己実現を支援する。 ・キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進し、種々の分野で社会人として活躍・貢献できる力を育む。 ・ホームルーム等において、キャリア・パスポートの積極的な活用と充実を図る。	A

るなど、多様な進路希望に対応したキャリア教育を推進する。	5 学校行事や部活動、ボランティア活動等の体験的活動の充実	・学校行事等を充実させ、生徒が主体的に活動できる環境づくりに努めるとともに、それらを通して生徒間の友人・仲間づくりを支援する。 ・部活動の充実を図るために、教職員や部活動指導員・外部指導者等による支援体制を整備する。 ・シティズンシップ教育を推進するために、生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させる。 ・ボランティア活動等の社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。	A
	6 開かれた学校づくりの推進	・学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者や地域社会との連携を図ることで、本校教育活動への理解の浸透を図る。 ・学校WEBページの充実やSNS等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。	B
	7 働き方改革の推進と職場環境の改善	・定時退勤日・完全退勤時間等を設定し、超過勤務時間の縮減に努める。 ・時差出勤制度の積極的な活用を図る。 ・部活動運営方針の徹底を図る。 ・教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	B

別紙様式 2 (高)

	8 コンプライアンスの遵守	・厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ・教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を自覚するとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を律する。 ・教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育職公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A
--	---------------	--	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 学習意欲の向上	・ I C T活用による教育活動を促進し、効果的な授業を実践する。	B	B	・生徒にとって「わかる授業」を行うため、I C T活用を通して、より効果的な授業を実践できるように取り組む。
		・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の導入を進め、指導方針の更なる改善を図る。	B		
	2 校内研修の充実	・観点別評価や I C T活用など現代学校社会の課題に即した研修会を充実させる。	B		
	3 広報活動の充実	・学校説明会の充実を図るとともに、進学フェアへの参加などを通して、本校の特色や魅力を積極的に中学生に P R する。	A		
		・学校行事等をホームページに掲載し、更なる情報を提供する。	B		
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立	・遅刻 0 チャレンジマッチ週間および服装指導強化週間を設け、自己指導力の育成を図る。	A	A	・基本的生活習慣を確立させる。 ・ S S W を有効に活用して、生徒を支援する。
		・学校生活の中で、挨拶・礼儀作法・遅刻防止等の基本的生活習慣を身につけさせる。また、正しい制服の着用および容姿を整えさせる。	B		
		・挨拶運動を推進し、思いやりの意識や社会性を身につけさせる。	A		
		・授業・集会等に臨む姿勢を丁寧に指導し、社会の一員としての自覚と責任の育成を図る。	A		
	2 自己指導能力の育成と問題行動の未然防止	・休み時間等の校内巡回指導を通して、生徒の活動の様子を把握し、問題行動の未然防止を図る。	B		
		・自転車の鍵の二重化や個人の私物の管理を呼びかけ、自己管理能力を育成する。	B		

別紙様式 2 (高)

生徒指導部	2 自己指導能力の育成と問題行動の未然防止	・登校指導や下校指導により、登下校状況の把握と交通マナーの向上を図る。	A		・いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図れるようにチーム学校としての生徒支援を行う。
		・学年集会等で正しい制服の着こなし方について指導し、社会生活における服装容儀の大切さを理解させる。	A		
	3 健康教育・生命尊重教育の重視	・喫煙や薬物の害に関する講話を実施し、喫煙や薬物使用を防止する。	A		
		・保健厚生部と連携をはかり、生徒の心のケアと教育相談を充実させる。	A		
	4 交通安全・情報教育の推進	・SNS講習会を実施することで、インターネット上でのトラブルを未然に防ぐ。	A		
		・自転車安全教室や原付免許取得者・バイク通学者に講習会を実施し、交通安全についての知識を深めるとともに、事故防止を図る。保護者説明会により理解と協力を得る。	B		
	5 いじめの未然防止・早期発見・早期解消	・生徒の自己指導力・自己有用感・規範意識を高めることで、いじめの未然防止を図る。	A		
		・保護者・生徒が学校に相談できる関係の構築と、複数の相談窓口を周知し、いじめの早期発見を図る。	B		
		・適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをして、いじめの早期解消を図る。	B		
		・保護者・地域・警察等の関係機関との連携を強化し、学校外でのいじめに適切に対処する。	A		
特別活動部	1 シティズンシップ教育の推進と生徒自身による主体的・自律的活動スタイルの確立	・生徒会が主催する学校行事について、生徒会が中心となって計画・立案・運営していく自治的、協働的な活動を支援する。	B	A	・ウィズコロナの中で、Zoom による全校集会や壮行会等を定着させることができた。 ・体育祭や文化祭を全校開催としたが、課題も多くあったので今年度の反省を次年度に生かす。
		・体育祭、文化祭、野球応援においては、実行委員会を中心に企画・運営する。	A		
		・委員会活動を活発にするため、定期的に委員会を召集し、話し合いを行う。	B		
		・各学校の生徒会と連絡し合い、コロナ禍でも行える行事を増やす。	A		
		・全校集会や壮行会等で、学校全体が参加できるようにする。	A		
	2 部活動のさらなる活性化	・1年生を対象とした部活動紹介及び各部毎の部集会を実施し、主体的な参加を支援する。	A		
		・県外大会出場の際には、生徒会・応援委員を中心に壮行会を実施する。	A		
		・中学生説明会等で、本校の活動のPRを積極的に行う。	B		
		・野球応援を通して各部活動が協力し、一致団結を図ることで愛校心を醸成する。	A		
		・各部活動の結果を掲示板等で報告し、励まし合うことで有用感を高める。	B		

別紙様式 2 (高)

特別活動部	3 キャリア・パスポートの積極的な活用	・各ホームルームにおいて振り返りを行い、現在の生徒の力を確認した上で、今後に向け必要な事を考える時間を設ける。	A		・生徒会の情報交換会に参加し、よりよい生徒会活動を模索した。 ・キャリアに関して振り返りを実施し、自身のキャリアプランを考えさせる。
		・生徒自身が今後の進路を意識し、社会で活躍する将来の姿をイメージ出来るような資料を提示するなど、活用しやすい工夫をする。	A		
	4 地域住民に愛される「地域とともにある開かれた学校」づくり	・生徒会を中心に、学校付近の清掃活動等のボランティアを積極的に行う。	A		
		・各部活動においても継続して、学校付近の清掃活動を行う。	A		
		・保護者、学校評議員、地域住民等に、積極的に生徒会活動を公開する。	A		
進路指導部	1 生徒一人一人の進路希望の実現	・学校生活で蓄積した知識や経験を活かし、個々にとって最適且つ社会貢献を見据えた進路を実現する。	A	A	・今年度の課題であるサポートティーチャーについて、伊奈高共催説明会やHPで募集した結果、8名が登録された。 ・探究と課外で交流の機会が得られたが、日程が合わない学生も多いため、募集方法等の検討を継続する。
		・各学年の進路行事や校内外の活動を通して、早期から高い進路意識を育成する。	A		
		・自己の可能性や適性を鑑みられるよう、学校行事の振り返りや面談等の機会を増やす。	A		
		・各教科と資格検定等の受験を促すことで、進路実現のための学力向上を支援する。	A		
		・模擬試験受験の環境をととのえることで、大学・看護医療系・公務員志望者に対して進路実現を支援する。	A		
	2 個々の特性を育てるキャリア教育の充実	・本校主催の「1日1大学説明会」やオープンキャンパス・高大連携講座等への参加によって情報を収集させ、学問や職業への興味・関心を喚起する。	A		
		・本校主催の「公務員講座」・「医療講座」等を通して、望ましい勤労観、職業観の育成や社会貢献の精神の涵養に資する。	B		
		・筑波大学院生等のサポートティーチャーと連携し、学力向上を目指す。	A		
		・「卒業生合格体験発表会」を実施し、多様な進路について具体的にイメージさせ、進路実現に生かす。	B		
		・体験的活動やボランティア、インターンシップ等の機会を紹介し、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、多様な人々との協働を推進する。	A		
		・最新の進路情報を提供し、現状に即した進路活動ができるよう支援する。	A		
	3 選抜試験への万全な支援体制	・進路だよりや進路の手引き等を発行し、進路選択のための情報を発信する。	A		
		・3学年と連携し、生徒の志願先に応じた受験対策を、学校全体で支援する。	A		
		・受験生徒が、各自の最善の状態です試験本番に臨めるよう、支援する。	A		

別紙様式 2 (高)

図書部	1 図書館の充実	・教科等横断的な学習活動や個別最適な学習が行いやすいように、図書館内の環境を整える。	A	A	・利用者数は最新データで前年比 158%と増やすことができた。 ・貸出冊数が前年比 84%と減った理由の検証をする。 ・希望図書のリクエストを募る。
		・探究を軸とした学びのスタイルのために、図書館としてできることを考え、できることから実行する。	B		
		・生徒・教員にリクエストを募り、利用者のニーズに合った本や読ませたい本を揃える。	B		
		・新聞・雑誌・図書の管理・整頓・保管を行い、利用上の便宜を図る。	A		
	2 読書の普及と推奨	・個に応じた教育と学力の定着のために、機会を捉えて読書を推奨する。	A		
		・秋に「朝の読書週間」を実施して、読書に親しむ機会を作る。	A		
保健厚生部	1 自己健康管理意識の育成	・手洗い、手指消毒の呼びかけを行う。	A	A	・教育相談は円滑に進めることができた。 ・環境美化ではゴミ分別を徹底する。 ・年間行事予定に保健厚生の行事を反映させる。
		・教室内の照明や換気等の教室環境整備を保健厚委員会の仕事と位置づけ、活動を活性化する。	A		
	2 環境美化意識の育成	・校内外クリーン作戦等の環境美化委員会活動を通して、環境美化意識を高める。	B		
		・大掃除・ワックスがけ等を通して、環境美化意識を高める。	A		
	3 防災意識の育成	・年 2 回の避難訓練を通して、防災意識を高める。	B		
		・日頃からの出火の防止に努め、消火器具等防火用品を準備しておく。また、家具類の転倒防止や窓ガラス等の落下防止を図る。	A		
	4 教育相談の円滑な運営	・生徒ひとりひとりが、安心・安全な学校生活を送れるよう、職員・保護者・学校カウンセラーとの情報を共有し、連絡を密にする。	A		
		・学校外の関係機関との連携のための調整及び連絡を密にする。	A		
渉外部	1 P T A 行事・事業計画の充実	・P T A 総会や評議委員会等の行事を企画・運営する。	A	A	・コロナ禍で実施できなかった事業が実施できた。 ・広報委員会や研修旅行を計画通り実施できた。 ・全国高 P 連の大会に参加できた。 ・同窓会活動への協力ができた。
	2 広報委員会の運営と充実した活動	・学校の様子を保護者に周知するため、P T A 会報を年 2 回発行する。	A		
		・広報委員会を数回開催し、会報の紙面構成及び内容を検討する。	A		
	3 研修委員会の運営と充実した活動	・P T A 研修視察の企画をし、本校 P T A 会員の研鑽に寄与する。	A		
	4 各種大会への積極的参加	・関東高 P 連大会・全国高 P 連大会に参加し、関東・全国の P T A との連携を図る。	A		
		・県内の研修会に参加し、本校 P T A 活動の改善に活かす。	B		
	5 同窓会活動への協力	・同窓会入会式を開催するなど、本校同窓会の活性化を支援する。	B		

別紙様式 2 (高)

情報部	1 G I G Aスクール事業に関する教員の資質能力向上	・校内研修を実施し、タブレットを使用した授業展開の普及を図る。	A	A	・事前準備に時間が掛かりすぎないアプリの利用法を確立する。
		・1人1端末のタブレットを利用した授業を展開し、Google Classroomをはじめとした授業アプリケーションの効果的利用法を検証し、改善を図る。	A		
		・教員のI C T機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A		
	2 G I G Aスクール事業に関する生徒個人アカウント・MACアドレス等の管理	・新入生のMACアドレスの及び、在校生の機種変更等に伴うMACアドレスの変更処理を適切に行う。	A	A	・年度末から年度初めにかけて、MACアドレスやアカウントの登録処理が煩雑になるため、情報部構成員の継続について事前に相談できる機会を設ける。 ・保護者との電話連絡が困難なため、Classroom等の利用を勧める。
		・生徒の教育情報ネットワーク・MSアカウント・学びポケットアカウントの年度更新処理・移動処理・変更処理等に、できるだけ俊敏に対応する。	A		
		・生徒のI C T機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A		
	3 施設・備品等の管理	・校内のコンピュータとその関連機器および視聴覚機器を管理して、校務に支障が出ないように運用する。	A		
		・校内無線ネットワークの維持管理・スムーズに利用できるネット環境整備を図る。	A		
	4 緊急情報メールの管理	・緊急情報メールの送信依頼には、即時対応する。	A		
		・定期的に緊急情報メールの登録者をチェックし、登録を促す。	A		
5 ホームページの管理	・更新依頼には速やかに対応し、最新の情報を表示する。	A			
	・閲覧者が見やすいホームページを維持するため、レイアウトを改善する。	A			
	・更新されていない情報等の更新を促し、必要のない情報は削除する。	A			
	・情報倫理に配慮して、適正に管理する。	A			
第一学年	1 基本的生活習慣の確立	・遅刻指導に力を入れ、基本的生活習慣を徹底させる。	B	A	・夏休み前後、人間関係に不安を抱える生徒の相談に乗ることができた。 ・次年度も引き続き、普段から生徒の様子を観察し、面談・相談や保護者との連携・協力に務め、信頼関係構築を図る。
		・ホームルームや学年集会で折に触れて自己の生活の振り返りを行うことで、自己指導力の向上を図る。	A		
	2 基礎学力の向上	・丁寧で細やかな教科指導を行い、必要な知識及び技能を習得する。	A		
		・思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を行い、主体的に学ぼうとする姿勢を育む。	A		
		・授業2分前着席を定着させ、集中して授業に臨む姿勢を身につける。	A		
		・定期考査や小テストにおける成績不振者へのフォローをし、誰ひとり取り残さない教科教育の実現を図る。	B		
		3 人間関係形成力の向上	・ホームルームや学校行事を通して、自己の役割を自覚し、主体的・自治的な活動を行うことでクラス内での連携を深める。		

別紙様式 2 (高)

第一学年	3 人間関係形成力の向上	・個人面談や日常的な会話等を通じて、話を聞く態度や場に応じた受け答えができるコミュニケーション能力を養う。	A	A	・日々の授業や部活動・検定試験や学校行事を充実させる環境をつくる。 ・多岐にわたる進路活動に向けて、多様な進路選択があることを学ばせる進路指導を実践する。
		・部活動への積極的な参加を促し、集団での人間関係を通して合意形成を図ることや意思決定ができるようにする。	A		
	4 「道徳」を通じた健全な心と体の育成	・授業担当者や講話担当者の個性を活かし、幅広い視野で物事が考えられる能力を育成する。	A		
		・異年齢集団との交流や清掃奉仕活動を通じて、他人を思いやる心の涵養を目指す。	B		
	5 進路意識の向上	・基礎力診断テストや模擬試験の事前、事後の指導を行い、進路実現に向けた学力を身につけようとする態度を育む。	A		
		・適性検査や学問研究等の進路活動を通し、自身の進路適性について考える。	A		
		・進路に関して多くの選択肢があることを知らせるために進路ガイダンスを充実させる。	A		
		・検定試験への積極的な挑戦を促し、進路意識の高揚を図る。	B		
第二学年	1 基本的な生活習慣の確立	・服装や頭髮の指導を徹底し、身だしなみを整えようとする姿勢を育む。	B	A	・年間を通して生活習慣の確立を促すことができた。 ・進路関連の行事を充実させ、来年度の進路決定に向けた意識付けをすることができた。 ・学習に関しては定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。 ・Classi を用いた個別最適化された学びの提供を継続して行う。
		・遅刻指導に力を入れ、基本的な生活習慣を徹底する。	B		
		・ホームルームや学校行事を通して、自己の役割を自覚し、主体的・自治的な活動を行うことでクラス内での連携を深める。	A		
	2 基礎学力の向上	・ICT を活用し、個別最適化した学習を提供することで知識及び技能の習得を図る。	A		
		・思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を行い、主体的に学ぼうとする姿勢を育む。	A		
		・定期考査や小テストの成績不振者へのフォローをし、誰ひとり取り残さない教科指導の実現を図る。	A		
	3 人間関係形成力の向上	・ホームルームや学校行事を通して、自己の役割を自覚し、主体的・自治的な活動を行うことでクラス内での連携を深める。	A		
		・個人面談や日常的な会話等を通じて、話を聞く態度や場に応じた受け答えができるコミュニケーション能力を養う。	A		
		・修学旅行などの行事を通して人を思いやる心を身につけさせ、自身の心身を豊かにする。	A		

別紙様式 2 (高)

第二学年	4 進路意識の向上	・進路に関するガイダンスや活動を充実させ、進路研究を行うことで進路実現に必要な能力を自覚する。	A		
		・将来の進路実現を見据え、受信力・発信力を身につける。	B		
		・基礎力診断テストや模擬試験の事前、事後の指導を行い、進路実現に向けた学力を身につけようとする態度を育む。	A		
		・検定試験や体験講座への積極的な参加を促し、職業観や進路意識の高揚を図る。	A		
第三学年	1 基本的生活習慣の確立	・食事や睡眠等の規則正しい生活を送り、継続することでルーティーンを確立する。	A	A	・コロナ禍で体調管理に努めることを習慣化できた。 ・進路に関する声掛けを行い続け、一定の成果をあげることができた。 ・礼儀やマナー、人間力向上を大事にし、集会やHRなど学年全体で取り組んだことで生徒の自立、成長に繋げることができた。 ・進路未決定者を出さないようにする。 ・欠席や遅刻に対する意識を向上させる。
		・遅刻者数の減少を目指しながら、基本的生活習慣の確立及び信頼関係の構築に繋げる。	B		
		・挨拶や礼義等の社会人としての適切なマナーを身につける。	A		
	2 基礎学力の向上	・小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着をはかる。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
		・進路への意識を持ちながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦する。	B		
	3 人間力の育成	・相手の立場になって物事を考えられるような声かけをしていく。	A		
		・他者と人間関係の課題を見だし、合意形成を図ることや意思決定ができるよう、ホームルーム、学年集会や探究の時間等で働きかけていく。	A		
		・母校となる自分の学校に誇りを持てるよう、全ての行動に責任を持つよう促す。	A		
	4 進路実現を見据えた意識	・生徒一人一人の特徴や長所を客観的に捉え、それを進路目標につなげられるようにする。	A		
		・”人”を大事にできる人間の育成を目指す。常に感謝の気持ちを忘れず、物事を前向きに捉えられるような取り組みを、道徳等を活用しながら行っていく。	A		
		・手帳等を活用しながら、自ら考え先を見据えた計画を立てながら行動できるようにする。	A		
国語	1 思考力・判断力・表現力の育成	・教材に応じて内容を要約させ、読解力・表現力を養成する。	A	A	・自分の考えを深め、それを自分の言葉で発表する機会を作り、効果的な言語活動を行う。 ・漢字検定受検者数、合格者数を増やせるように、生徒へ
		・プリント等を活用し、文章の内容を的確に捉える思考力を育成する。	A		
		・他者の発表を聞き自分の意見と照らし合わせて、さらに考えを深める判断力を育成する。	B		
		・自分の意見を発表する機会を増やし、積極的に自分の言葉で表現する力を養成する。	B		
	2 基礎学力の向上・家庭学習の定着	・月に2回の漢字小テストを実施し、達成感を味わう活動を行う。	A		
		・提出物の徹底を図り、家庭学習の定着を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

国 語	2 基礎学力の向上・家庭学習の定着	・漢字や文法等を繰り返し学習することで、基礎的な知識の定着を図る。	A		の声かけや課外等 を積極的に行う。
	3 資格取得の奨励	・授業において漢字練習の機会を与えるなど個別最適な学習を行う。	A		
		・2年次の一斉受験に向けて、1年次より漢字検定の受検に対する意識を持ようにする。	B		
		・漢字検定の合格率向上のため、課外等の充実を図り、生徒を支援する。	A		
地 理 ・ 歴 史	1 一般教養として必要な知識や基礎・基本の定着	・担当者間の連絡を密にして、授業内容を精選し、基礎的な知識・概念の習得を目指す。	A	A	・学習内容を現代の 国際問題等と関連 づけて理解する授 業を実施する。 ・新課程の教材研究 や評価方法の見直 しを行う。
		・歴史科目においても地図ワーク等を利用し、科目の枠を超えて地理的感覚を養う。	A		
	2 民主主義の本質に関する理解の深化	・様々な時代・地域を学ぶ際に、国家の役割や民主主義と主権者について考える。	B		
	3 現代の国際的諸問題と関連づけた理解の深化	・新聞やニュース等を活用し、最新の国際問題と関連づけた授業展開をする。	A		
		・民族・文化の多様性を尊重する姿勢で様々な時代や地域を学び、自らも世界の中の一員であることを意識できるようにする。	B		
公 民	1 一般教養として必要な知識・技能の習得	・ICT教材や新聞、ニュース、ドキュメンタリー番組等を積極的に活用した授業を展開する。	A	A	・資料活用能力や合 意形成能力を養う 授業を実施する。
	2 事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力の育成	・グループでの協働的な学びにおける意見交換や発表活動を通して思考力・判断力・表現力を養う。	A		
		・長期休業中の課題としてレポート作成を実施し、資料活用能力を養う。	B		
	3 知識を実社会の理解に役立てた社会参画への姿勢の育成	・国家及び社会の形成者としての自己を意識できるように、生徒にとって身近な事例を取り上げる。	A		
		・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する。	B		
数 学	1 基礎学力の定着	・生徒の能力や実態を鑑みて、授業展開と教材の精選を図る。	A	A	・ICT機器を考査の振 り返しや課題の提出 にも利用できた。 ・新課程の教材研究を より深く行う。 ・他教科と協力し、横 断的カリキュラムの 実施を図る。
		・授業内で、各教科の内容と関連づけさせながら、基礎的な計算の練習を行う。	A		
	2 授業方法・内容の改善	・基礎的事項の理解と定着を図るため、教員相互の授業参観を行い、指導方法の工夫と改善を図る。	A		
		・生徒それぞれの進路を考慮した上で、授業内容を精査する。	B		
	3 学習習慣の定着	・生徒の学習習慣の確立のため、定期的にノートや問題集等を提出させ、適切に評価する。	A		
		・長期休業時の課題の内容をテスト等で確認・評価することで学習習慣の定着を図る。	B		
	4 数学的思考力・表現力の向上	・身近な事柄に関して、表やグラフ、数式等で表現し、数学的に考察し表現する力を養う。	A		

別紙様式 2 (高)

理 科	1 化学的な自然観の育成	・化学の基礎・基本的な知識の習得を図り、物事を科学的に探究する能力と態度を育成するために、化学に関する演示実験・生徒実験を行う。	B	A	・ICT 機器や Class room 等を積極的に利用した授業を展開することができた。 ・演示実験、生徒実験を取り入れ実施できた。 ・生徒の基礎力の不足を感じたので、中学校の学びなおしも視野に入れた指導を行う。
		・個人の理解度に応じた指導内容を工夫し、より理解を深めるために、視聴覚教材や I C T 機器を有効に活用する。	A		
	2 生物的な自然観の育成	・身近な自然の事物・事象を取り上げ、授業の課題設定を行うことで、生徒たちが課題を持って学習に取り組むことができるようにする。	A		
		・授業ごとに振り返りの時間を設定し、メタ認知能力を育む。	A		
		・自然科学的な物事の見方・考え方を意識した授業を展開する。	B		
	3 物理的な自然観の育成	・自然現象を科学的に分析する営みを通して、事象を論理的に考察する力を養うとともに、物理学の雰囲気を感じとる。	B		
		・生徒のより深い理解を目指し、I C T 機器を活用したわかりやすい授業を展開していく。	A		
保 健 体 育	1 各種運動の合理的な実践を通しての運動技能の向上	・I C T 教材や視聴覚教材を用いることで、生徒が興味・関心を持ち、自ら健康・安全について理解を深められるようにする。	A	A	・視覚教材を取り入れた授業を展開することができた。 ・各種目において、生徒一人一人に応じた課題設定を行い、その課題解決に向けて協力して動くことができた。 ・生徒一人ひとりの運動量を確保し、基礎体力の向上を図る。
		・ノートを毎学期末に提出させ、学習習慣や理解度を確認する。	B		
		・球技（サッカー・ハンドボール・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・テニス・ソフトボール・卓球）、武道（柔道）、水泳、陸上競技（マラソン）、体づくりの様々な運動を行い、技能を高める。	A		
	2 運動の楽しさや喜びの会得	・自らの体力・技能を知り、自らが課題をみつけ、課題解決のための学習計画を立てることができるようにする。	B		
	3 体力の向上及び公正・協力・責任の態度の育成	・マラソン大会に向け、1 ヶ月間程度、持久走を行うことにより、体力の向上を図る。	A		
		・準備運動・整理運動を徹底し、自己の体調管理ができるようにする。	A		
		・個々への役割を与え、集団の一員としての公正・協力・責任等の態度を育てる。	A		
	4 生涯を通じて継続的に運動ができる資質・能力の育成	・場の設定や器具・用具、ルール工夫により学習効率を上げる。	A		
		・活動場所・用具の点検を行うことで安全面の配慮ができるようにする。	A		
		・ノートを毎学期末に提出させ、理解度を確認する。	A		

別紙様式 2 (高)

音楽	1 幅広い音楽活動による生涯を通じて音楽を愛好する心の育成	・歌唱・器楽・鑑賞・創作の分野について、幅広く学習実践する機会を設ける。	A	A	・実技だけでなく、小テストの頻度を増やし、基礎的な知識の定着を図る。 ・鑑賞で感じたことや考えたことをグループで発表する等、言語活動に力を入れる。
		・曲をじっくりと味わうことができるよう、ワークシートで鑑賞能力を高める。	A		
	2 基本的な読譜力・表現力の育成	・曲の理解やアンサンブルの楽しさを通して、音楽を愛好する心を育てる。	A		
		・基本的な知識及び技能を習得し、個別最適な反復練習をする機会を設ける。	B		
	3 音楽を伝統や文化、歴史的な側面から理解する資質・能力の向上	・表現及び鑑賞の領域において、ワークシートを使用し、曲の背景や作曲家の意図を理解し、感じ取る力を育む。	A		
		・多様な文化に触れる機会をもち、良さを味わう活動を行い、批評する力や表現力を獲得する。	B		
書道	1 基本的書写能力の向上及び興味・関心の育成	・個々の音楽経験や技能に応じた目標を設定し、個別最適な学習を行う。	A	A	・生徒の実態に応じた目標設定をし、個別指導の充実を図る。 ・鑑賞における効果的な活動の在り方を考え、充実を図る。
		・音楽のグループワーク・演奏活動において、対話的・協働的な力を育む。	A		
	2 書に親しみ愛好する心の育成及び表現能力の向上	・題材に応じた補助資料を作成し、活用することで基礎的な用筆法等の知識及び技能の定着を図る。	A		
		・生徒一人一人の個性や技能を考慮し、個別最適な学習を徹底する。	B		
	3 鑑賞能力の向上	・実用的な書に取り組ませ、生徒の書に対する興味関心を高める。	A		
		・3年次では、卒業制作として折状の作成をする。	A		
英語	1 4技能の指導の充実	・題材毎に相互批評をする機会を設けることで思考力・判断力・表現力を養う。	A	A	・3年間を見通した指導計画を立て、多様な活動を通して生徒が各技能をバランスよく習得できるようにする。 ・効果的にICTを活用した授業を計画・実施し、生徒が自身のタブレットを使用して、意欲的
		・石碑や本、新聞のタイトル等の身近な書を教材に採り入れることで、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	A		
		・効果的に主体的・対話的で深い学びの実現を図るためにアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開をする。	B		
	2 基礎学力向上及び学習の定着	・ALTを積極的に活用し、クラスルームイングリッシュを用いた授業を積極的に行う。	A		
		・3年間を通して「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能をバランスよく習得する英語科グランドデザインを立案・実施する。	A		
		・定期的な小テストの実施等を通して、既習事項を繰り返し学習し、知識及び技能を確実に定着する。	A		
		・生徒の実態に合わせた課題を定期的に配布することで、家庭学習の習慣を身につけられるようにする。	A		
		・生徒の実態に合わせた個別最適な学習と協働的な学習の両立を図る。	A		
			A		

別紙様式 2 (高)

		・ICTを活用し、授業理解の促進を図るとともに、スモールステップで達成感を味わう活動を取り入れる。	B		に学習に取り組み、学習内容を定着できるようにする。
	3 資格取得の奨励	・英検受験の奨励と合格者の増加に向けた課外等の指導の充実を図る。	A		
家庭	1 基礎知識と技術の定着	・ICT教材を活用し、きめ細やかな支援を日々心掛け、確かな知識と技術の習得を図る。授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かせるよう、ひとりひとりが活躍できる場を提供する。	A	A	・ICT 機器を積極的に活用した授業実践を図る。 ・生徒の実態に応じた目標を立て、個別指導の充実を図る。 ・授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かすことができるようにする。
	2 安心して学べる環境づくり	・包丁や裁ちバサミ等実習道具の扱い方等の知識及び技能を習得するとともに、安全管理を徹底する。	A		
		・教科等横断的な様々な体験を通して、生徒達が得た「知力」「体力」「感性」を十分に使いこなせる場面を、授業において設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	B		
		・日々教材研究に努め、官公庁からのデータの使用等、正確かつ最新の情報を授業に取り入れる。	A		
	3 地域との連携	・学校家庭クラブ活動を通して、地域との連携を図る。	B		
情報	1 情報社会についての理解	・情報社会に潜む危険性を理解する。	A	A	・プログラミングに必要な理論的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施する。
		・情報社会のモラルを理解し、コンピュータを扱う上でのルールやマナーを理解する。	A		
	2 コンピュータについての理解とその活用	・コンピュータの使用方法を理解する。	B		
		・社会生活におけるコンピュータの利便性を理解し、活用できるようにする。	A		
	3 インターネットについての理解とその活用	・インターネットを安全に使う方法を理解する。	B		
事務室	1 安全安心な学校づくり	・長期的な施設整備計画を立て、県への予算要求を行う。	A	A	・引き続き相互のチェック体制を維持し、財務会計の適正な執行に努める。
		・校舎内外の施設設備の目視による点検を行う。	A		
		・不良箇所は速やかに修理修繕を行う。	A		
	2 財務会計の適正な執行	・校内予算を作成し、計画的に物品を購入する。	A		
		・各種法令を遵守し、誤りのない会計業務を執行する。	A		
		・互いの業務をチェックし合い、ミスや不正を未然に防ぐ。	A		

※評価基準： A：目標・方策等を十分に達成できた。
 B：目標・方策等をほぼ達成することができた。
 C：目標・方策等を達成することができなかった。